

Japan ASEAN Youth Summit (JAYS)

日 ASEAN ユースサミット副実行委員長 松本欧介

目次

1. 事業紹介
2. 事業概要
3. 事業詳細
4. 準備状況と今後
5. 後援・協力組織

1. 事業紹介

日 ASEAN ユースサミット(JAYS)は日本と東南アジア 11 カ国の高校生世代（15 歳～18 歳）を対象にした国際会議です。2023 年度の日 ASEAN 友好 50 周年を記念して、第 1 回サミットを 2025 年 2 月に開催することを目的に我々、日 ASEAN ユースサミット実行委員会が NPO 法人 MIS 内で発足しました。

JAYS の発足理念	未来の世界を担う若者にとって国際学生会議の存在は、国境を超えた交流や、政府関係者、専門家を交えた議論を行うことができる機会を提供し、学生自身の将来の可能性を広げる意味で、非常に大きな影響を持ちます。そのような機会は多くの場合、大学生以上に対して提供されているが、それらの経験を進路が定まらない高校生の時期に得ることにより、その後の進路や将来像をより高い解像度で捉え、新たな可能性を得ることができます。本会議では、上記のような非日常的経験を日本及び ASEAN 地域の高校生世代の学生に対して長期的に提供することにより、参加者の新たな可能性を発掘し、将来的にその成果が社会に還元されていくようなものにしていくことを理念とします。
JAYS が目標とするもの	高校生という将来像が不確定な世代に対し、多国籍にまたがる同年代の参加者とともに、専門家や企業との交流、特定の議題に対しての真剣な議論の場、成果物の発表の機会を提供することによって、参加者が新たな将来像を獲得できるような経験を得ること、そしてその経験を元に成長した参加者が未来の社会をより良いものにしていくことが本会議の目標です。それを踏まえた上で、会議の構成においては成果物のクオリティよりも、参加者に提供できる経験の価値を重視して行っていきます。

2. 事業概要

テーマ	“Designing a Better Future”	
分野	医療 / 環境開発 / その他の分野を設ける可能性もあり	
開催期間	2025年2月18日(火)～2025年2月23日(日)※前泊後泊含め	
開催地	ジャカルタ(インドネシア)	
予算*	350万円 (内訳：万博基金210万円、参加者費用140万円)	
参加者数**	50名対面参加者 + 250名オンライン参加者 参加者構成：東ティモール含めた、東南アジア11カ国と日本出身の高校生	
会議構成	① 事前課題 ② 講義 ③ 視察 ④ ワークショップ ⑤ 最終プレゼンテーション	
事業実施団体	日 ASEAN ユースサミット実行委員会 ※以下、実行委員会と表記します。	2023年に日 ASEAN 友好50周年を記念して設立された MIS***内のプロジェクトチームの一つです。外務省の JENESYS プログラムに携わることで得た知見を元に、日本と ASEAN 各国の高校生向けの国際会議の設立を目的に発足しました。2023年度中に210万円を公益財団法人万博記念基金より調達し、外務省・ASEAN 事務局との協議を開始しました。現在の実行委員会には東京大学を中心に、東京外国語大学・横浜市立大学・早稲田大学などの学生が所属しています。実行委員会は本事業において、分科会の準備、日本政府・ASEAN 事務局との調整を担当します。
	NGO ASEAN Youth Organization (AYO)	2011年に創設された、ASEAN 地域最大の NGO であり、若者を中心とした社会貢献を推進する団体です。東南アジアの全ての国において支部を持ち、従業員10人と約500

		<p>人のボランティアを抱える団体であり、2011年以降、東南アジア各地で400以上のプロジェクトを遂行している団体です。MISと契約を結び、本事業の実施に向けて、本格的に協力していきます。AYOは本事業において、東南アジア側でのロジ面の調整(ホテル、会場、食事等)、東南アジアでの広報、インドネシア政府との調整を担当します。</p>
--	--	---

* 参加者費用に関しては、対面参加者は190 USD ~ 210 USDを検討中ですが、確定していません。オンライン参加者は5 USDを検討中。対面参加者の参加費用には飛行機代以外の全費用が含まれます。予算の詳細の確認は予算表を参照してください。

** 参加者募集に関しては、今年度は1国ごとに1つの学校を指定して参加者を募集する予定です。理由としては、高校生対象のプロジェクトであり、リスク管理上の懸念点があり、教師といった保護者の存在が必要となる可能性がある点と、参加者を確実に確保できる点が挙げられます。

***NPO 法人 MIS (Multilateral Interaction with Students) に関する団体概要は、別途資料をご覧ください。

3. 事業詳細

本章では、会議の全体像及び会議の詳しい行程、分科会プログラムの構成と内容について、説明します。

会議の全体像	以下は、対面での会議の全工程を概略的にまとめたものです。ただし、事前オンラインプログラムは除いたフローチャートを載せています。					
	1日目 2月18日	2日目 2月19日	3日目 2月20日	4日目 2月21日	5日目 2月22日	6日目 2月23日
	前泊 (遠方者)	開会宣言	講義①	ワーク ショップ	最終発表	帰宅日 (遠方者)
		基調講演	講義①		講評	運営スタッフによる 反省会 片付け
		ディスカッション	視察訪問	発表準備	閉会挨拶	
		交流会	交流会		解散	

会議の 行程	1月上旬	<p>顔合わせの実施(Zoom meeting)</p> <p>対面での会議に参加する前に、オンラインで参加者の顔合わせをする機会を設けます。アイスブレイクを通じて、他の参加者と交流するとともに、事前知識がない状態で、参加者が選んだ分科会テーマに関するディスカッションを通して、対面での会議の準備をしてもらうことを目的とします。また、オンラインプログラム中に事前課題を告知し、次回までに取り組んでもらう予定です。</p>
	2月10日	<p>参加前最終調整の実施(Zoom meeting)</p> <p>対面での会議の直前1週間前に最終調整をオンラインで実施します。この最終調整では、ワークショップの際に使うロジックツリーといった問題分析の手法に関する講義をはじめ、参加者に会議の詳しい行程や会議の行程中のリスク管理に関わる注意事項について実施団体から説明し、参加者に会議について深く理解してもらうことを目的とします。また、1月上旬で提示された事前課題について参加者から発表してもらう機会も設けます。このような事前オンラインプログラムを用意することで、参加者にとって会議がより実りのあるものになると考えています。</p>
	2月18日	<p>前泊(遠方者用)</p> <p>ASEAN 地域は広大であり、ジャカルタに到着する飛行機の時間もそれぞれ異なるため、国によっては会議初日の午前中に到着する飛行機の便がない可能性が考えられます。そこで、前泊日を設けることで、遠方からの参加者は他の参加者よりも1日早くジャカルタ現地に到着し、翌日から始まる会議に備えてもらうようにします。宿泊に関しては、会議期間中に泊まるホテルと同様の場所に前泊し、夕食は弁当を提供する予定です。</p>
	2月19日 (会議1日目)	<p><午前中></p> <p>後続の参加者はジャカルタに到着し、各国の参加者ごとに空港にて昼食をとった後、開会式会場(ASEAN 事務局)へ移動します。前泊をした参加者はホテルに待機し、朝食をホテルで、昼食は弁当を食べて、開会式会場(ASEAN 事務局)へ移動します。</p> <p>開会式(ASEAN 事務局※未定)</p> <p>ASEAN 事務局のオフィスにて本会議の開会式を行います。これが、前泊の参加者と後続の参加者はこの開会式会場で初めて合流する機会となります。開会式では、開会宣言、基調講演、来賓挨拶、パネルディスカッション等のプログラムを用意する予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会宣言(ASEAN 事務局の幹部※未定) 2. 基調講演(外務省日本政府代表部の方) 3. 来賓挨拶 <p>日本と東南アジアに関わってきた産業界、政界、アカデミアの方々に一言いただきたいと考えています。予算の都合上、インドネシアの方が多くなったり、オンラインでの挨拶をしたりしていただく可能性があります。</p>

		<p>4. パネルディスカッション 本会議の全体テーマである“Designing a Better Future”に関連した議題について、実行委員が司会を務め、ASEAN 事務局の方やインドネシア政府関係者等、外務省日本政府代表部の方々※未定にお話ししていただく予定です。議題・段取りに関してはまだ決まっていません。</p> <p>5. 閉会の言葉(実施団体のメンバー)</p>
		<p>交流会(Sarasa Restaurant) 開会式後は、参加者全員が Sarasa Restaurant にバスで移動し、夕食を食べてもらいます。単なる夕食ではなく、ASEAN 地域と日本の 12 カ国から参加者が集まっている貴重な機会なので、各国の文化を紹介する事前課題をあらかじめ出し、参加者に披露してもらうという文化交流プログラムを設けます。形式はまだ決まっていません。</p>
		<p>ホテル帰宅 交流会後、参加者全員はバスに乗って、ホテルに戻り、就寝します。</p>
<p>2月20日 (会議2日目)</p>		<p>朝食(ホテルのレストラン) 朝食は毎日ホテルのレストランにてとります。参加者は指定された時間内にレストランに向かい、朝食をとり、日中のプログラムに備えてもらい、時間になったら参加者全員でホテルを出発し、講義を実施する会議場(インドネシア政府オフィス)へバスに乗って向かいます。</p> <p>講義(インドネシア政府オフィス) 会議2日目から分科会ごとのプログラムが始まります。 <small>※分科会プログラムの細かい内容、行程に関しては、次章に記すのでご参照ください。</small> 分科会ごとの顔合わせ・アイスブレイクは、事前オンラインプログラムや1日目の交流会で完了しているので、講義から分科会プログラムが始まります。各分科会で講義を2つ用意し、参加者には2つの講義を聞いてもらい、分科会のテーマに関する知識の精度を上げてもらい、後の視察やワークショップにおいて考える素材としてもらうことを目標とします。講義終了後、参加者には実施団体が用意した昼食の弁当を食べてもらいます。</p> <p>視察(各分科会の視察先※未定) 昼食後、分科会ごとに分かれて、各分科会テーマに沿った視察先を訪問してもらいます。視察先訪問の際に、現場を見てもらうことを通して、分科会の議題で取り上げられている「現状」を感じてもらうとともに、現場で実際に働いている専門家の方々と話す機会を設けて、ワークショップに向けた準備してもらいます。それぞれの視察にかかる時間は視察先ごとに異なりますが、定められた時間に夕食の会場(Sarasa Restaurant)に到着するように視察先を出発する予定です。</p> <p>交流会(Sarasa Restaurant) 1日目と同様。</p>

		ホテル到着 1日目と同様。
2月21日 (会議3日目)	朝食(ホテルのレストラン) 2日目と同様。	
	ワークショップ(インドネシア政府オフィス) 分科会ごとに、2日目の2つの講義と視察先訪問の際に見聞きした、あるいは専門家と話して得た知見をもとに、事業実施団体が用意したワークショップを進めてもらいます。その際に4日目の最終発表との関係で、最終発表を行うチーム分けをして、そのチームごとにワークショップを進めてもらいます。3日目のワークショップを通して、分科会の議題における現状分析や課題発見、解決方法を参加者に模索してもらい、最終発表に生かしてもらうことを目的とします。 3日目は移動が少なく、ほとんどの時間をインドネシア政府のオフィスで過ごすことになるため、参加者には昼食・夕食は実施団体が用意した弁当を食べてもらうことにします。 参加者全員が夕食をとった後、インドネシアのオフィスを出発し、バスでホテルに戻ります。	
	ホテル到着 2,3日目同様。	
2月22日 (会議4日目)	朝食(ホテルのレストラン) 2,3日目同様。朝食を取り次第、最終発表の会場であるASEAN事務局のオフィスにバスで向かいます。	
	最終発表会(ASEAN事務局オフィス) 3日間のプログラムで培った知識と話し合った成果をもとに、参加者にはチームに分かれて、分科会の議題について最終発表を行ってもらいます。最終発表会には、専門家や教授等を審査員として呼び、最も評価の高いチームを表彰する予定です。 最終発表会とその講評の終了後、参加者は実施団体が用意した弁当を昼食として食べてもらいます。昼食後、速やかに閉会式を行います。	
	閉会式(ASEAN事務局オフィス) 最終発表会でクライマックスを迎えるので、閉会式は開会式と比べて、簡素なものになる予定です。 1. 開会の言葉 2. 参加者へのインタビュー 最終発表をした各チーム1人ずつにインタビューをして、会議の感想を全体に発表してもらいます。 3. 実施団体からひとこと 実行委員会とAYOの各代表からひとこと挨拶をしてもらいます。 4. 記念写真撮影 5. 閉会の言葉	

		<p>閉会の言葉をもって、本会議のプログラムのすべてが終了し、参加者全員でホテルに戻ります。各参加者の出身国とジャカルタを結ぶ飛行機の便の出発時間にもよりますが、出発が24日の夕方までに合う場合は、空港に向かい、それぞれの出身国に帰国してもらいます。</p>
		<p>夕食・就寝(ホテル) 数名の帰国者がホテルを出発した後、後泊する参加者は、実施団体が用意する弁当を夕食として食べてもらう予定です。</p>
	2月23日	<p>朝食(ホテル) 2,3,4日と同様。朝食をとった後は、各国の参加者を解散させる予定です。 ※23日に現地に残っている参加者にどう対処するかは、ほとんど決まっています。</p>
分科会 プログラム	医療分科会	<p><設立理念> 世界共通の理想として「全人類の健康」がある一方で、現状ではすべての人が適切な医療を受けられているわけではありません。そこで、医療分科会では「すべての人に医療を届けるためにはどうすれば良いだろうか」というテーマを設置し、参加者たちに自分の意見を持ってもらえるようプログラムを設計します。分科会では、子供や高齢者を始めとする幅広い世代の健康ニーズや課題について学習できる機会を提供し、日本や東南アジアの政府機関や教育機関による講義・医療機関等への視察を計画する予定です。</p> <p><プログラム構成> プログラム構成は、事業概要の通り、①事前課題→②講義→③視察→④ワークショップ→⑤最終発表の5段階に分ける。以下、それぞれの詳細を説明します。</p> <p>① 事前課題 対面での会議前に、会議本番のプロジェクトを参加者にとってより実りあるものにするために事前課題を課します。自分の持っている知識を確認し、各自の調べ学習を通じて前提知識を身に付け、分科会テーマに興味を持ってもらうことを目的とします。</p> <p>内容は、医療に対する参加者自身が持つイメージの把握、テーマについての理解、自国又は他国における有効であった医療政策の研究、の3つです。参加者自身の医療に対するイメージについては、「今まで自分や自分の家族が受けた医療サービス」等のファクトベースの項目だけでなく、「医療に関するニュースで印象的であったもの」等の参加者自身の主観的な視点を含んだ項目を設けます。そうすることで、分科会テーマが参加者になじみやすいものにします。テーマについての理解では、テーマに含まれる「すべての人」「医療」「届ける」の3つの言葉に関連した事柄について調べ、参加者自身の意見を整理してもらいます。これら2つに加えて、自国又は他国で成功した医療政策についても調べることで、最終発表の参考にして</p>

		<p>もらいます。以上の3つの事前課題を課すことで参加者が抱く分科会テーマの解像度を上げていきます。</p> <p>事前課題の形式は、ワークシートを参加者にオンラインで配布し、記入してもらおう形式をとります。</p> <p>② 講義</p> <p>事前課題に取り組んでもらうことで、参加者の分科会テーマに対する理解は深まります。しかし、事前課題がオンラインでの取り組みであり、かつ個人的な調べ学習である面が少なくないため、対面での最初の分科会プログラムとして講義を2つ用意します。事前課題の前提知識を身に着けた上で専門家から知識を直接インプットすることを通して、医療に関する政策への理解を促すことを目的とします。</p> <p>内容は、「ASEAN 地域における医療全般の現状・課題に関する講義」、「インドネシアで進んでいる医療のデジタル化に関する講義」の2つを用意する予定です。前者の講義の講演者はまだ確定していないが、医療現場を直接見ている医師や医療ボランティアに依頼することを考えています。後者の講義の講演者はインドネシア保健省から紹介していただくことが確定しています。内容・講演者については、10月半ば頃に決定する予定です。</p> <p>③ 視察</p> <p>講義を通して参加者の分科会テーマに対する理解が深まりましたが、現場を体感する機会がないため、医療現場の実状を体感する機会として視察を用意する予定です。参加者が知識をつけ、問題意識を持ち始めたタイミングで現場を体感してもらうことと分科会についての解像度を高めることを目的とします。</p> <p>内容は、インドネシア保健省から医療機関などを紹介していただく予定です。</p> <p>④ ワークショップ</p> <p>視察までのプログラムを通して気づいたことなどをチームで共有し、最終発表に向けてのディスカッションを行うためにワークショップを行います。視察までのプログラムを通して得た知識のアウトプットとディスカッションにより視野を広めること、他参加者との協力やコミュニケーションを促すことを目的とします。</p> <p>内容は、講義・視察のアウトプット、課題発見、課題解決の3段階に分けてディスカッションを行います。まず、講義・視察を通して個々人が考えた課題や解決策を共有します。その後、テーマに即して最終発表で扱う課題を決定します。最後に、課題の解決策についてディスカッションを行い最終発表の準備を行います。</p> <p>⑤ 最終発表</p> <p>プログラム全体で得た学びや各参加者が持った意見をまとめて発表する場として最終発表を行います。この発表は、プログラムの最終的な成果物であり、学びの共有を目的とします。</p>
--	--	---

		<p>内容は、プログラム全体を通して得た学びや、各チームでディスカッションをした課題・解決策についてスライドにまとめ、全体に発表を行います。この最終発表会には、専門家や教授等を審査員として招待し、参加者の発表について講評をいただき、最も評価の高いチームを表彰する予定です。</p>
	<p>環境開発分科会</p>	<p><設立理念> 急速な経済成長を遂げる東南アジアにおいて、都市開発に付随する社会問題は、地域に共通する喫緊の課題となっています。環境開発分科会では、「住み続けられる街づくり」というテーマを設定します。分科会プログラム内では、山積する社会課題に対して都市インフラが持てる役割を考察していくことを主軸に、持続可能な都市開発の形について講義で学習できる機会の提供や、ジャカルタの公共交通機関の現場の視察を計画しています。</p> <p><プログラム構成> プログラム構成は、事業概要の通り、①事前課題→②講義→③視察→④ワークショップ→⑤最終発表の5段階に分ける。以下に、それぞれの詳細を説明します。</p> <p>① 事前課題 事前課題においては、議論の前提として参加者が本分科会のテーマである都市開発について基本的な知識を得ると同時に、自分で調べて情報をまとめることを通じて、テーマに対する興味や疑問などを持てるようになることを目的とします。</p> <p>具体的には、「自国の都市インフラのあり方についてのリサーチ」「自国の都市問題と都市インフラの関係性についての考察」「ASEAN 内部、外部それぞれの他国との現状比較」の3つを行います。1つ目では、参加者ごとに自国の都市における、電気、水道、通信、交通、廃棄物処理の5つの都市インフラがどのような形で管理、運営されているかを調べ、写真なども用いながら表にまとめます。2つ目では、先にまとめたインフラのあり方が、どのように都市での暮らしと結びついているか、利点と欠点の双方について整理し、また欠点についてはそれがどのような社会課題を引き起こしているか、リサーチしてまとめます。3つ目では、それらの社会問題について他国においても同様の問題が上がっているのか、もしくは何らかの方法で解決しているのか、そもそも問題にならないのか、技術、文化、環境などの側面から比較・考察します。それをもとに自国での問題解決のアイデアを考え、それを会議当日の最終発表の作成に活かしてもらうことを目標とします。</p> <p>事前課題の形式は、ワークシートを参加者にオンラインで配布し、記入して提出してもらう形式をとります。</p> <p>② 講義 講義においては後述するワークショップと連関する形式で、参加者がテーマとして掲げたインフラと社会課題を結びつけ、最終発表作成への道筋を示すことを目的とします。特に、事前</p>

		<p>課題において前提知識を身につけた状態で専門家による講義に望むことによって、より主体的に学びを得てその後のプログラムに生かしていくことを目的とします。</p> <p>現状2つの講義を行うことを予定しており、具体的には1つ目の講義で「ASEAN 地域における都市環境に共通する構造や課題について」、2つ目の講義で「インドネシアにおける首都移転の計画とジャカルタの今後の展望について」を計画しています。講演者については10月中を目処に決定する予定です。</p> <p>③ 視察</p> <p>視察においては、事前課題、講義、ワークショップを通して参加者の分科会テーマに対する理解が深まったところで、実際に現場を体験する機会を設けることで、議論と現実の相違点を把握し、より解像度の高いワークショップに繋げていくことを目的とします。</p> <p>具体的には、インドネシアの都市交通の鍵となる鉄道建設事業の現場を訪問し、その実態を見学する機会を設けることを予定しています。</p> <p>④ ワークショップ</p> <p>ワークショップにおいては、事前課題と講義、視察を通して参加者の分科会テーマに対する理解を深めた参加者同士が、これらのプログラムを通して気づいたことなどをチームで共有し最終発表に向けてのディスカッションを行うプログラムを行います。プログラムを通して得た知識のアウトプットとディスカッションを通して視野を広めること、他参加者との協力やコミュニケーションを促すことを目的とします。</p> <p>具体的には、講義・視察から得た学びや気づきの共有、取り上げるインフラの策定、及びそれに関する課題の設定・解決策の思案の3段階に分けて、ディスカッションを行ってもらいます。まず、講義・視察から得た学びや気づきをグループ内で共有してもらい、他の参加者の意見に触れることでテーマに対する理解を一層深めてもらいます。次に、講義や視察で学んだ交通、エネルギー、通信などの様々なインフラに対してそれぞれがどのような社会課題へ結びついているか、どのような解決の可能性があるか、議論の中でアイデアを共有し、取り上げるインフラと社会課題を選んでもらいます。その後、選んだテーマに関する各国の現状や課題について分析します。最後に、課題に関する解決策について、ディスカッションを通しながら考えを深めてもらい、最終課題のプレゼンテーションの準備を進めてもらいます。</p> <p>⑤ 最終発表</p> <p>最終発表においては、プログラム全体で得た学びや各参加者が持った意見をまとめて発表を行います。この発表が、プログラムの最終的な成果物であり、学びの共有を目的とします。</p> <p>具体的には、各チームがワークショップでディスカッションを行なった課題や解決策について発表を行う予定です。この最</p>
--	--	---

		終発表会には、専門家の方々に審査員として出席していただき、最も高い評価を得たチームを表彰する予定です。
--	--	---

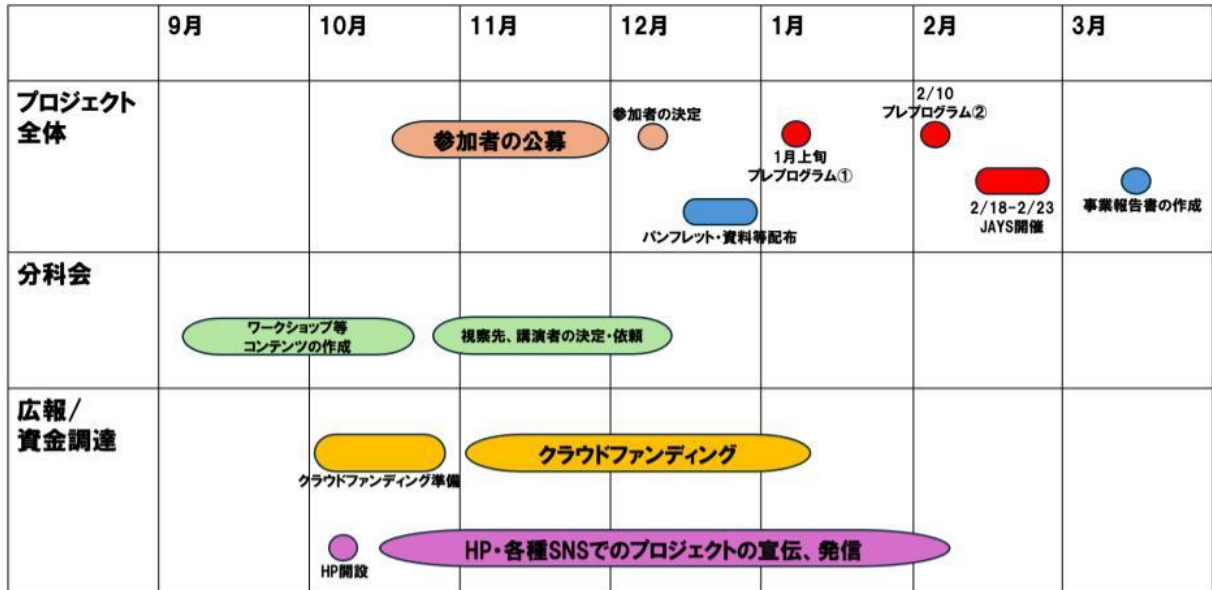
4. 準備状況と今後

AYO のお力添えもあり、分科会準備等のコンテンツ面、参加者の宿泊・食事等のロジ面双方の準備が着実に進んでいます。本章では、主にロジ面に関する準備状況と、会議開催までの準備の計画について、説明します。

準備状況	会議場	<p>【検討中】</p> <p>2024年8月下旬にジャカルタを渡航した際に、インドネシア政府(Kemenko PMK)の方とお会いして、会議室の貸し出しを打診したところ、承諾をいただきましたが、参加者構成や分科会テーマに関する条件が付く可能性があることや、口頭での約束であることといった懸念点があり、現在確認しているところです。代替案として、ASEAN事務局のオフィスの会議室を借りる案がありますが、本事業はASEAN事務局から出資されていないこともあり、かなり厳しい状況です。さらなる代替案としては、ジャカルタ市内の私立大学の教室またはOld Cityの博物館内の施設を貸し出してもらえないか打診する案もあります。こちらに関しては、AYOと慎重に話し合いしながら進め、10月中に場所を確保する予定です。</p>
	交通手段(飛行機)	<p>【確定】</p> <p>高校生のリスク管理上の懸念から、参加者を学校単位で各国から募集するため、出身国とジャカルタを行き来する飛行機に関しても学校単位で、参加者にとってもらう方針です。その際に飛行機の便だけ、実施団体が調べ、参加者と保護者に共有して、学校の責任者に航空券を手配してもらおうという形をとる予定です。飛行機の手配に関しては、参加者が決まり次第、臨機応変に対応できたらと考えています。</p>
	交通手段(バス)	<p>【確定】</p> <p>ジャカルタ市内は原則バスで移動します。バスは、現地の会社であるWhite Horse Groupを通じてチャーターします。こちらはまだ予約はとれていない状態で、バスの台数については、参加者が決まり次第柔軟に対応する予定です。 ホームページ：https://whitehorsegroup.co.id/.</p>
	宿泊	<p>【確定】</p> <p>参加者と実施団体の運営メンバーはジャカルタ市内の同じホテルに宿泊する予定です。宿泊先は、Ashely Wahid Hasyim Jakarta Hotelです。10月中に予約を取る予定です。 ホームページ：https://ashleywahidhasyim.com-jakarta.com/en/.</p>
	朝食	<p>【確定】</p> <p>上で説明したホテルに付随するレストランで参加者と実施団体の運営メンバーは毎朝朝食をとる予定です。</p>
	昼食	<p>【確定】</p> <p>本会議の都合上、昼食の際にレストランに行く時間や手段がないという理由から、弁当をケータリングする予定です。弁当</p>

		は Sarasa Catering という事業者から購入する予定であり、いずれの昼食も同じ事業者から購入します。 ホームページ： https://sarasa.id/ .
	夕食	【確定】 夕食の場所は、現地のインドネシア料理店である Sarasa Restaurant にする予定です。3日目を除く、1,2日目の交流会で利用する予定です。こちらの予約は、10月中に行う予定です。 ホームページ： https://sarasa.id/ .
今後のスケジュール	10月上旬	基調講演・分科会の講義の決定
	10月中旬	募集要項の一般公開・参加者募集開始
	10月下旬	視察の設計を完成
	11月中旬	分科会の完成
	12月上旬	参加者募集締切

以下が、今後のスケジュールを概略的に示したフローチャートです。



5. 後援・協力組織

現在いずれの団体からも後援はいただいていませんが、今後ご後援やご協力をいただく可能性がある団体を以下に記します。

<p>資金をいただいている団体</p>	<p>公益財団法人 日本万国博覧会記念基金 1970年の大阪万博の収益金の一部を管理する基金であり、その運用益を万博の成功を記念するにふさわしい国際相互理解の促進に資する活動や文化的活動を対象に、助成金を交付している公益財団法人です。2023年度秋に実行委員会が同財団の単年度助成事業に応募した結果、210万円の助成金の給付が決定しました。 ホームページ：https://www.osaka21.or.jp/jecfund/.</p>
<p>今後協力する可能性がある団体</p>	<p>ASEAN 事務局 昨年度のジャカルタに実行委員会が渡航した際に、面談をさせていただき、2024年度8月にも一度オンラインで面談をして、本事業をASEAN事務局公認のイベントにできないかを協議しているところです。しかしながら、ASEAN事務局からの出資を受けてない点で、公認を受けるのは困難であるといわざるを得ない状況にあります。 ホームページ：https://asean.org/the-asean-secretariat-basic-mandate-functions-and-composition/.</p>
<p>今後協力する可能性がある団体</p>	<p>インドネシア政府（人材開発・文化担当調整大臣府（Kemenco PMK）） インドネシアにおける文部科学省・厚生労働省・法務省に当たる省庁を統括する省庁です。2024年度8月下旬に実行委員会がジャカルタに渡航した際にお会いして、事業に関する相談をしたところ、本事業の後援を快諾していただき、会議室の貸出に前向きでした。しかしながら、参加者の構成や分科会テーマに関する条件を提示される可能性があるため、現在AYOを通して協議中です。 ホームページ：https://www.kemencopmk.go.id/.</p>
<p>今後協力する可能性がある団体</p>	<p>インドネシア政府（保健省） インドネシアにおける厚生労働省です。2024年度8月下旬に実行委員会がジャカルタに渡航した際に、現地のオフィスを訪問し、本会議における医療分科会のプログラムの面で協力していただくことに承諾していただきました。医療分科会内の講義をしてもらう職員を紹介してもらうことや、ジャカルタ市内の病院といった医療機関の訪問を調整してもらうことなどの協力を考えています。 ホームページ：https://www.kemkes.go.id/eng/home.</p>
<p>今後協力する可能性がある団体</p>	<p>独立行政法人 国際協力機構(JICA) 日本の政府開発援助(ODA)を一元的に実施する独立行政法人である。2024年度8月下旬に実行委員会がジャカルタに渡航した際に、JICAインドネシア事務所を訪問し、環境開発分科会の講義・視察の設計について相談しました。今後の分科会の準備次第で何かしらの形で協力する予定です。 ホームページ：https://www.jica.go.jp/.</p>

今後後援名義をいただく可能性のある団体	<p>外務省日本政府代表部</p> <p>ASEAN 事務局に対して日本政府を代表する機関です。2024 年度 8 月下旬に実行委員会がジャカルタに渡航した際に、お会いして後援について承諾をいただいたほか、基調講演やパネルディスカッションへの登壇も検討していただいています。後援名義については、現在準備中であり、11 月に名義をいただく予定です。</p> <p>ホームページ：https://www.asean.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html.</p>
	<p>独立行政法人 国際交流基金 (JF)</p> <p>世界の全地域で総合的に国際文化交流事業を実施する日本の専門機関です。今年度 6 月にオンラインで本事業に関する相談をした縁があり、後援名義を申請する予定です。</p> <p>ホームページ：https://www.jpff.go.jp/.</p>
	<p>日・ASEAN 経済産業協力委員会 (AMEICC)</p> <p>日アセアン経済大臣会合 (AEM-METI) の下部組織であり、日本と ASEAN の経済・産業協力を促進することを目的としている。2024 年度 9 月下旬にオンラインで、本事業に関する相談をさせていただいた縁があり、後援名義を申請する予定です。</p> <p>ホームページ：https://ameicc.org/.</p>

以上が、事業概要になりますが、会議まで残り 3 か月余りあるため、内容が一部変更する場合がございます。その場合は、事業報告書において説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。